

奈良県知事 荒井正吾 様
健康福祉部長 土井敏多 様

2017年8月22日
日本共産党奈良県会議員団
県会議員 山村 幸穂
県会議員 今井 光子
県会議員 宮本 次郎
県会議員 小林 照代
県会議員 太田 敦
日本共産党奈良県地方議員団
日本共産党奈良県委員会
細野 歩
井上 良子
霜鳥 純一
所 進

子どもの医療費助成制度窓口負担の無料化を求める要望書

奈良県の子どもの医療費助成制度は多くの県民の要望によって年々対象年齢が拡大され2016年度より対象が中学卒業まで通院、入院ともに拡大されました。

しかし、病院窓口でいったん自己負担分、小学校入学前までは2割、小学校以降は3割を支払い、あとから1レセプトあたり外来は500円、入院は1000円を超える分が自動償還払いとなっています。

全国的には窓口負担を無くしている自治体が多く、一部負担金がかかる自治体は756市区町村、一部負担金がなく無料なのは986市区町村(2014年4月現在)です。

子どものけがや病気は急に起きることが多く、そのときお金がないと医療を受けることができません。

奈良県でも無料を求める声がありましたが、県はそのたびに国のペナルティを理由にいったん医療機関の窓口で支払い、あとから戻る自動償還払いにこだわって来ました。

国は来年4月から就学前までの子どもの医療費の助成に対してペナルティを廃止することを決定しました。奈良県でもこれを機会に窓口の負担を無料にして、お金がなくても誰でも安心して医療が受けられるよう県の制度の改善を強く望むところです。

- 1, 子どもの医療費助成制度中学卒業までの窓口負担をなくしてください。
- 2, 所得制限を撤廃して誰でも受けられるようにしてください。

以上